

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC



ふじみの国際交流センター

Fujimino International Cultural Exchange Center

2009年 6月号 (隔月刊) 第103号

子どもと共に育つ親の会 2009年度も活発に活動中

子どもと共に育つ親の会では、2008年度の活動として、子育て中の外国籍の母親の育児サポートと、外国籍市民に対する日本人の理解を深めることを目的に、毎月国際交流イベントを開催。その他、母国語での育児情報が不足している外国籍市民からのヒアリングを元に、地域の幼稚園と保育園の詳細、病院のリスト、予防接種の情報などを盛り込んだ6カ国語のガイドブックを500部作成し、公共施設等に配布しました。また、幼稚園・保育園の入園に関する通訳付きの入園説明会を4ヶ所で開催しました。

2009年度は、「ほくほくの会」を加えて、さらに活発に活動中です。



入園ガイダンスに集まった母親たち

2009年度 年間予定表

<ほくほくの会>

4月 参加者顔合わせ、種イモの植え付け

5月 草取り、消毒

6月 草取り、消毒

7月 草取り、消毒

8月 収穫

<親の会>

2009年

5月7日 顔合わせサロン

6月4日 ダンボールde あそぼう

会場：ぱれっと会議室1・2

7月30日 夏休み企画 どろんこde あそぼう

場所：山崎公園

(雨天の場合は次週に延期)

9月17日 収穫したじゃがいもを使って調理実習

10月1日 でんしゃde えんそく 会場：未定

11月5日 えのぐde あそぼう 会場：未定

(じゃがいもなどの野菜でえのぐ遊び)

12月3日 みんなde クリスマス 会場：未定

(クリスマスアレンジ ケーキのデコレーション)

2010年

1月21日 美味しい国際交流 講師未定

2月4日 サロン 会場：未定

3月4日 スクラップブックング 会場：未定



ダンボール遊びは子どもたちに人気

子どもと共に育つ親の会ブログ

<http://oya.hansokuya.com/>

違紛争地域やフィリピンなど 世界の子どもたちを支援する団体

「仕事や勉強でなかなかボランティアに参加できないけれど、何かしてみたい」と考えている人は多いと思います。日本国内には、数多くの国際協力団体があります。ことに、貧困の中にいる世界中の子どもたちへの支援団体があり、ボランティアとして協力することができます。みんなが普通の生活ができるように、あなたも何か始めませんか？

フィリピンの子どもたちを支援 クムスタカリンク

ふじみ野市の市民が中心となり、フィリピンの農村とストリートチルドレンの支援をしている団体です。現地コーディネーターのソーシャルワーカー、メラニー・タカランさんと連携をとり、1991年、マニラの障害を持つ子どもたちの支援を始めました。

2000年から、マニラ近郊のマーシン村の人々を中心とした奨学金支援をしています。2008年、会の名前をクムスタカリンクと決め、巨大台風の被害を受けたマーシン村に資金や生活物資を送ったり、有機農業のプロジェクトをたちあげたり、ストリートチルドレンの生活指導をするなど総合支援をしています。スタディーツアーに参加したい人や会員を募集しています

代表：小林久美

電話：049-263-4351

<http://kumustakalink.xrea.jp>



フィリピンの子どもたちを支援 CFF

CFFとは、ケアリング・フォー・ザ・フューチャー・ファンデーション・ジャパンの略。約20年前に、暴走族やニートの日本の若者を連れてフィリピンに行き、ストリートチルドレンとして暮らす日比混血児のために、安心して生活できるように「子どもの家」を建設しました。

2001年から、両親の離婚や虐待などの、家庭的な事情で家族と共に暮らすことが出来ない子どもを集めて、日本人スタッフ一人とフィリピン人スタッフが指導にあたり、現在25人の子どもが暮らしています。子どもたちの健康や安全、教育の促進を目指して、児童養護施設を増設し、現地の人たちと一緒に青年が中心になって活動しています。

「気付いて築く」が活動の原点で、「子どもの家」建設のワークキャンプを春と夏に3回ずつ、「教育」「文化」などをテーマに決めるスタディーツアーを3月と8月に実施しています。

一人の子どもが生活し学校に通うには、年間日本円で7万円必要です。そのためのチャイルドケアサポーターを募集しています。

代表：二子石章

所在地：豊島区東池袋2-62-8-206

電話：03-5960-4602

<http://www.cffjapan.org>

在日の子どもたちを支援

CCS

CCS(世界の子どもと手をつなぐ学生の会)は、在日外国人の子どもたちをサポートする学生のNGOです。参加できるのは学生だけ。八王子・練馬・新宿など都内7箇所の教室で、子どもたち一人ひとりの学習状況を考慮して、日本語や教科学習、高校進学に向けての学習をしています。長期に活動に参加できて、毎週の学習教室に参加が可能な学生ボランティアを募集しています。

所在地は品川区区内ですが、子どもの安全を考慮して住所は公開していません。ホームページをご覧ください。連絡はメールで事務局に送ってください。

<http://www.ccs-ngo.org>



紛争地の子どもたちを支援

ドイツ国際平和村

テレビ番組「ウルルン滞在記」でおなじみのドイツ平和村は、市民の手によって1967年に設立しました。紛争で被害を受け母国では治療を受

けることが出来ない子どもたちを、ヨーロッパで治療し、治療後は母国に帰すという活動をしています。また、紛争で被害を受けた地域や危機に瀕した地域での、医療ケアの向上を目指した援助活動を行っています。

平和村施設・基礎健康センター・診療センター・義足作業場などを建設し、資金面などの支援を行っているほか、平和教育活動を行っています。毎月決まった額を振り込んでくださるサポーターを募集しています。

寄付金口座

三菱東京UFJ銀行本店

普通預金 0152887

口座名：ドイツ平和村

<http://japan.friedensdorf.de>

子どもの権利を守る世界組織 (財)日本ユニセフ協会

別名をユニセフ日本協会といい、36の国と地域にある「ユニセフ国内委員会」の1つです。国際連合児童基金(ユニセフ)の日本における民間協力の窓口で、寄付金の一部は活動費に当て、8割はユニセフ本部に拠出しています。歌手のアグネスチャンさんや医師の日野原重明さんを日本ユニセフ協会大使に任命し、広報・調査活動を委託しています。

児童ポルノに対する規制の強化を求める署名行動をしています。貧困の中で必死に生きる世界の子どもたちに、文房具などを届け、生きるチャンス・成長するチャンス・夢をかなえるチャンスを与える活動として、月つき3000円の寄付をしてくださるサポーターを募集しています。

所在地：港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

電話：0120-88-1052

<http://www.unicef.or.jp>

(取材・文：石井ナナエ)

ドイツ出身のシルビア・クヌストさん いま日本語を勉強し、和太鼓に熱中

富士見市在住のドイツ人、シルビア・クヌストさんは、昨年4月に来日。夫がドイツ系自動車関連企業の機械エンジニアで、東松山の工場に赴任したことから来日したもの。シルビアさん自身も機械エンジニアで、来日する前の半年間は中国・上海に赴任して働いていた。しかし、夫婦で中国と日本に分かれて生活していたことから、シルビアさんが退職して日本で一緒に生活する道を選んだ。

ふじみの国際交流センター（FICEC）に来るようになったきっかけは日本語教室。来日して2ヵ月ぐらいたった昨年6月に、市役所でFICECの出版物を見て、日本語教室が開かれていることを知り、さっそく訪ねてきたとのこと。

「FICECの日本語教室には、日本人、外国人を含めて、いろんな国の人が出て、たくさんの友達ができました」と、笑顔で話す。

いま、FICECの日本語教室以外に、夫の会社でも週1回の日本語指導が行われているため、東松山にも行って、一緒に日本語の勉強。「二人とも、まだあまり日本語は上手ではありませんが、家でも『日本語で話しましょう』と、日本語で会話することもあります」と



のこと。

いま、シルビアさんが熱中しているのが和太鼓。その音に魅せられて、「自分でも敲いてみたい」と、上福岡の同好会に入会して教えてもらっている。そのグループに英語ができる人はいないとのこと、身振り手振りでの指導。「『まっすぐ、まっすぐ』というように動作で教えてもらっています」と、和太鼓を習っているのが楽しくて仕方がない様子だ。

「日本のきれいな点は何か」と質問をぶつければ、「日本人は働きすぎ。男の人が朝から夜遅くまで残業して、働いてばかりいるのが信じられない」という感想。「日本人と結婚した外国の女性の話を聞くと、お盆と正月ぐらいしか休みがないと話していました」と、すっかり同情している。

しかし、シルビアさんの夫はそんなことはなく、日本ではバカンスを取って、すでに日光、京都、広島などに旅行をしてきた。広島では海に鳥居が立つ宮島の景色に感動したと話す。「今年の夏は、ドイツから友達が訪ねてくるので、北海道に行くことにしている」と、いまから楽しみにしている。

（通訳：中村眞寿美、取材・文：内藤忍）



FICECでの楽しいひととき。
左から、取材の通訳をしてくれた中村眞寿美さん、
シルビアさん、FICECでの友人・阿澄康子さん

「定住者」ってどんな人？

藤林 美穂

他に分類しづらい、さまざまな人が含まれる

前々回の記事で「就労系」と「身分系」の在留資格の違いをお話しました。でも、実際にはそれぞれのカテゴリーの中でも細かい分類があります。今回は、「身分系」の中でもちょっとわかりにくい「定住者」の在留資格について説明します。

「身分系」在留資格は「居住資格」とも言われます。「永住者」、「日本人の配偶者等（日本人と結婚した人、あるいはその子）」、「永住者の配偶者等」、「定住者」の四つに分かれますが、最初の三つはなんとなくイメージできますよね。では「定住者」はどうでしょうか。このカテゴリーには他には分類しにくい、いろいろな人たちが含まれています。いわゆるインドシナ難民、日系人、日本人・永住者などの子、中国残留日本人孤児とその子、などなど。

定住は英語で言うと「LONG TERM」です。「定住ビザがある」という場合、「日本人の配偶者等」や「永住者」などと同じく、とりあえずどんな仕事にも就けるし、仕事がない場合（手続は大変かもしれないけれど）生活保護申請もできます。

先ほど列挙した定住者の例だけだと、ごく限られた範囲の人たちにしかあてはまらないような気がします。が、「分類しにくい人たちが含まれる」カテゴリーなので、外国人の生活相談などをしていて、パスポートを見せてもらうと意外にこの在留資格の人が多いのです。

たとえば、日本人男性と結婚して「日本人の配偶者等」の在留資格を持っている外国人女性が離婚したとします。二人の間に日本国籍の子どもがいて、女性が子をひきとって育てる場合、在留期限が切れる前に、入管で「私は日本国籍の子を養育しています。離婚したけど日本でこの子を育てていきたい」と主張して、「定住者」の在留

資格に変更することができます。今度は、その人が同じ国出身の男性と日本で再婚すると、その男性も「定住者」の在留資格を得ることが可能です。さらに、その女性が本国に子どもを残して来日していた場合、その子呼び寄せて日本で一緒に暮らしたい、となると、その子もまた「定住者」の在留資格になります。

在日フィリピン人のライフスタイルはこの「定住者」の仕組みにスポッとハマっている、と思うことがよくあります。フィリピン人は、もともと1980年代以降に「興行」ビザで入国してきた人が今のところ多く、したがって女性の比率が高いのですが、その人たちが日本人と結婚し、出産し、離婚し、というプロセスを経て今は定住者（永住者）、というパターンがとても多いです。また、フィリピンはカトリックが主流の社会で、その影響で避妊中絶をしないためか、婚外で生まれる子どもも多く、日本に来る前に生まれた子（故郷の家族がその子の面倒を見ていることが多い）を本国から呼び寄せたい、と考える人もたくさんいます。さらに彼女たちと新たに日本で結婚するフィリピン人男性もけっこういる、というわけで、フィリピン国籍の「定住者」は今後ますます増えていくのではないのでしょうか。

筆者紹介

10年あまりNGOで働いた後、フィリピン人支援グループでボランティアしたり写真の勉強をしたりしつつ昨年行政書士として開業、これから外国人のビザ取得などの仕事を中心にやっていきたいと思っています。どうぞよろしく。

ライフ行政書士事務所

<http://officelife.sakura.ne.jp/>

<http://shigotonichiroku.sblo.jp/>



募集

ふじみの国際交流センター

日本語教室ボランティア

毎週**木曜日**午前**10時**～**12時**

- ふじみの国際交流センター日本語教室では、外国籍市民のために生活言語としての日本語を教えています。
- 来日したばかりの方へ「これはいくらですか」「～へ行くにはどうすればよいですか」といった日常生活に必要な会話から、日本語習熟度を確認したい、レベルを知りたいという方への日本語能力検定対策まで、さまざまな日本語の勉強を行っています。
- 今、こうした日本語を学びたいという外国籍学習者の数に対して、教える側の日本人ボランティアが不足しています。
- 見学大歓迎です。ちょっとですが学びたい言語のブラッシュアップにもなるかもしれません。
- 教材は日本語教室で用意してあります。

勉強の後のお茶会



教えてあげてください

生活言語の日本語会話

ふじみの国際交流センター

日本語教室 担当/岩田・戸塚

TEL/049-256-4290

センターの日常活動内容を検討する定例スタッフ会議の要約です。

2009年4月7日スタッフ会議

出席者：9人

[1] 総会に向けて、各プロジェクトの20年度報告と21年度計画を提出してください
・生活相談・シェルター・国際理解と社会教育・センター行事・イベント・パソコン教室【石井】

・日本語教室・「インフォメーションふじみの」【岩田】

・親子日本語教室【鈴木】

・国際子どもクラブ【梶・戸塚】

・「ハローフレンズ」・ホームページ【内藤】

・翻訳・通訳【荒田】

・会計【阿澄】

・わいわいクラブ【羽石】

・子どもと共に育つ親の会【高橋】

・センター利用状況【野沢】

・中国語教室【野沢】

・英語教室【森】

・韓国語教室【豊枝】

締め切りは4/20

[2] サティのイエローキャンペーンで集まった34,500円でデジカメとお茶・コーヒーなどを買いました

4/12(日) サティで贈呈式があります。デジカメは使用自由です。いつでも連絡してください。

[3] 主な連絡事項

・鶴瀬のサンドラックさんから寄付していただいた5000個の老眼鏡を2市1町の公共施設で使っていただくように連絡しました。
・白百合女子大学萩原先生の勉強会「国際結婚について」4/17(金)10:00~11:30

2009年4月7日スタッフ会議

出席者：9人

[1] コープの助成金でパソコン教室用のパソコン3台を買いました。

外国人の学習者の募集(ポスター・チラシ)

5月~9月、10月~2月 各5人募集
パソコン教室--第2、第3木曜日の午後自習、復習--第1、第3木曜日の午後新しいデスクトップパソコンはパソコン教室で使用します

[2] 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業に応募しました
日本語指導養成の企画書を提出
内容は日本語指導スタッフのスキルアッ

ブ講座

[3] 最近のNPOの動きについて

・特にNPOと大学との協働、県との協働、NOP 同士のネットワークの動きがみられる

・7月30日には県南西部地域7市の市町村との協働アイデア提案会も実施される

[4] 総会に向けての討議「これからのセンターについて」

・困っている外国人に対して、日本語の勉強だけでなく、心のケアにもっと力を注いだ方がいい。

・センターが楽しければ、困った外国人だけでなく、たくさんの外国人も来るはず。

・外国人が来訪してもスタッフの仕事が多く、余裕のある対応ができていない

・1人体制の当番を日本人スタッフと外国人スタッフの2人体制にしたらいいいのではないか

・日本人スタッフが少ない。

・日本語教室の後、和やかに話ができる時間を作ってはどうか

・日本語教室の最近の状況は、早く日本語を習得し、すぐ仕事をしたいという外国人が多い。

・外国人にも余裕がなくなっている。

・語学教室の日本人学習者は目的が違うのでなかなかスタッフになってももらえない

・センターは生活相談が基本、センターの柱と思っている。

・「協働」も市民のパワーがあってこそ実現する。

・楽しいイベント、例えば料理教室などはたくさん人が集まる。まずセンターに来てもらうような企画を立てる。

・今、外国人は自分のネットワークでほとんどの問題を解決できている。センターの生活相談に来る外国人はそのコミュニティを持たない人たちで、友達も相談する人もいないそのような人たちを日本人がどれだけ拾えるかだと思う。

[5] 主な連絡事項

白百合女子大学萩原先生の勉強会「国際結婚について」

5/15(金)10:00~11:30

インターナショナルデー「無料医療相談会のお知らせ」AMDA国際医療情報センター

開催/4月26日 11:00~15:00

場所/東京カテドラル関口会館(文京区

関口3-16-15)

内科・外科 7カ国語対応

2009年5月19日スタッフ会議

出席者：7人

[1] UPS基金「教育キャンプ」

・約45万円 交通手段/電車

・期間 2009年8月4泊5日

・場所 南蔵王協働学舎(白石市福岡八宮字大綱287-1)

・指導者 沼田伊久俊(ふじみの国際交流センター理事、元ボーイスカウト埼玉県副会長)

・参加者 小中学生20名、スタッフ5名

・現地でのスタッフが足りません。協力してください。

[2] 「就労支援のためのパソコン教室」

・講師/梶 里美

・対象/外国籍の方

・期間/A 2009年6月~11月

B 2009年12月~2010年5月

・日時/毎月第2,4木曜日 13:00~14:30

・定員/A・B 各5人

・内容/ワード・エクセル・チラシ作成、ひとりひとりに合ったプログラム

・参加費/無料

第2,4木曜日-講習、第1,3木曜日-自習

申し込み方法

・チラシに申込書が付いています。

・お知り合いの外国の方にお知らせください。

・「インフォメーションふじみの」に掲載

新しいデスクトップパソコンと次郎のパソコンを交代する予定でしたが、新しいPC3台を教室で使用します。次郎のパソコンはこれまでどおりセンターで使用します。

[3] SSCS(地域創造ファンド)の面接がセンターで5/30(土)9時から実施されず。

今後、面接に向けて希望の大学生が見学に来ます。対応をよろしく願います。

[4] 主な連絡事項

5/17 東入間遊技業組合から10万円の寄付金をいただきました。

5/23(土)PM 埼玉大学経済学部インターナショナル説明会に出席します。

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 王シャロン 小澤ヴィクトリア 尾高昇 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 金子康子 上福岡教会 候 国際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 斉藤彩子 菅山修二 鈴木譲二 堰代仁子 曹圻 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 馮雪蘭 深見水季夫 三澤真理 村上省三 百瀬滉 森田信子 (有)矢野住研 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります
 ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年以上になります。その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もお支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター(FICEC) 理事長 石井ナナエ

ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>英語教室 隔週水曜日・木曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円 第二、第四火曜日 午後1時～3時 受講料：月2回2000円</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 1回500～1000円</p>	<p>子ども英語教室 6歳から12歳を対象とした英語教室。 毎週金曜日 午後4時～5時 受講料：1回600円</p>

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291
 生活相談専用電話: 049-269-6450

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ(センター理事長)
 編集委員(50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理